

# 早生ナシ「早優利」、<sup>さ ゆ り</sup>「凜夏」<sup>りんか</sup>の盆前収穫技術を確立 (農林センター)

丹後地域特産のナシについて、有望品種とジベレリン処理および早期摘果（間引き）を組み合わせ、盆時期の出荷と大玉化を実現できる栽培技術を開発しました。「二十世紀」との組み合わせで10%の収益増が期待できます。

## 背景

丹後地域のナシ生産農家（26戸、生産面積約40ha）は、観光客が多い盆前時期に販売可能で、糖度が高く大玉のナシ品種および栽培技術を切望している。

## 課題等

食味の優れた2品種を選定したところ、「早優利」は糖度が高く8月上旬に出荷出来るが、果実が小さく、「凜夏」は大玉だが盆時期に出荷出来ない。



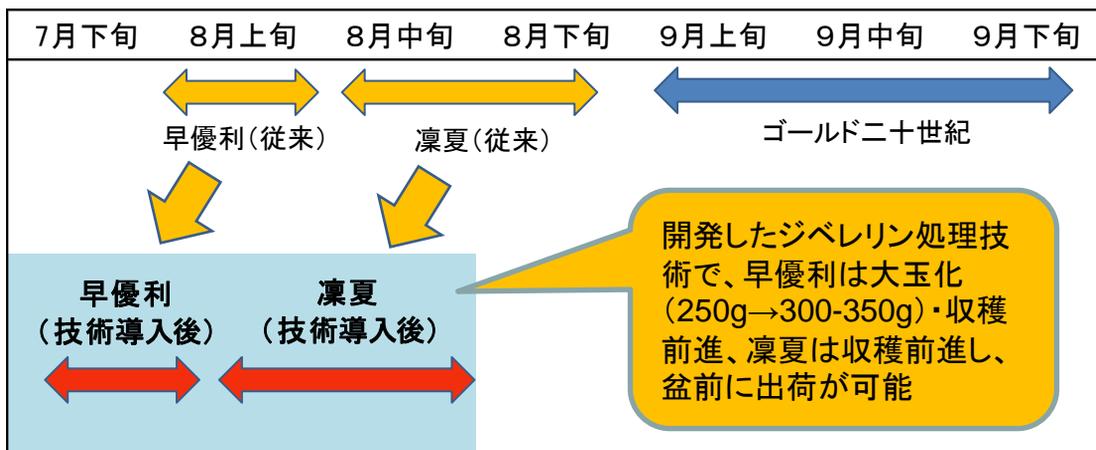
開花30～40日後に果実肥大促進と収穫前進を目的にジベレリンを果軸に処理することが重要な技術。



収穫直前（7月下旬）の早優利  
果実重(g) 300～350  
糖度(Brix)13.0～13.5



収穫直前（8月中旬）の凜夏  
果実重(g) 500～550  
糖度(Brix)11.5～12.0



## 研究成果

- ・ 早優利は満開14日後摘果と満開30日後ジベレリン剤処理で、7月下旬(約10日前進)に収穫可能
- ・ 凜夏は満開30日後にジベレリン剤処理することで、8月上～中旬(約10日前進)に収穫可能
- ・ 経営試算では、二十世紀ナシの栽培面積の30%をこれらの品種に転換すると、収益約10%増加  
⇒産地全体で900～1800万円の生産額向上

■現状(二十世紀100a)  
二十世紀 35,000kg × 300円/kg=10,500千円

■転換後(二十世紀70a 凜夏30a)  
二十世紀 24,500kg × 300円/kg=7,350千円  
凜夏 9,000kg × 400円/kg=3,600千円

■転換後(二十世紀70a 早優利30a)  
二十世紀 24,500kg × 300円/kg=7,350千円  
早優利 7,500kg × 450円/kg=3,375千円

## 今後の展開

→225～450(千円)/1(ha) × 40(ha)=9,000～18,000(千円)

新たな丹後地域の特産ナシとして、ブランド京丹後ナシと併せて生産振興を図っていきます。